厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究
「高齢者がん患者の内科系治療」

研究分担者　相羽　惠介　東京慈恵会医科大学　腫瘍・血液内科　客員教授

研究要旨

本分担研究では、「高齢者がん患者の内科系治療」における従来情報を整理することで基盤整備を目指した。当該領域には確たるエビデンスがないことから、Systematic Review を通して有用な情報を最大限網羅することに努めた。今年度は特に食道癌、胃癌、肝癌、胆嚢・胆管癌、膵臓癌、肺癌、前立腺癌など薬物療法中心に内科系治療の Review を斯界専門医に依頼し、初稿を得た。その初稿を他の専門医が査読することにより、Pier review 的要素を最大限加味することで「高齢者がん患者の内科系治療」の現況を纏めることに務めた。現在作業は、各査読内容を各執筆者にフィードバックする段階であり、順調に進捗している。次年度はそれら初稿に対する初校原稿を再査読し、さらに二校(second draft)を得ることで完成度を高め、限られた範囲内ではあるがより精密かつ的確な情報を纏める予定である。

A. 研究目的

1)「高齢者がん患者の内科系治療」における従来情報を整理し、診療方針を策定する。

B.研究方法

1）初期到達目標としては、「高齢者がん医療 Q&A」の編纂であり、逐次「診療ガイドライン骨子」の作成に移行し、最終的にはこれらの基盤整備を経て関連各学会との相互連絡を持続的かつ緊密に保つことにより関連各分野、臓器分野における完成度の高い指針の立案に至ることを展望している。このために本研究班では「高齢者がん診療指針準備委員会」及び「小班」を設置し、随時対応している。

2)「高齢者がん医療 Q&A」編纂については、2018 年 12 月 15 日に第 2 回編集委員会を開催し種々検討した。これに附随して本分担研究である「高齢者がん患者の内科系治療」についても、従来の範疇を超えて検討すべき臓器癌をさらに加えて、執筆者や査読者を選定、依頼した。

3）本研究班構成メンバーに加えて、がん関連 22 団体参加と 2 学会協力による高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)を設立し、本研究班や関連学会・団体の目下の研究活動状況や「高齢者がん医療」の課題や将来構想など多岐にわたる情報の共有に務める。コンソーシアムの活動を「高齢者がん医療 Q&A」の編纂や「診療ガイドライン骨子」の作成に反映させ、「高齢者がん患者の内科系治療」についても補完する。

4）以上の 1)～3）の活動を通して附随的に開催される種々の検討会、研修会を広報し、当該分野に興味を有する医療者、賛同一般人など人材育成に努め、「高齢者がん患者の内科系治療」に関心のある人材育成にも努める。

C.研究結果

1)「高齢者がん診療指針準備委員会」及び「小班」の会議が随時開催され、「高齢者がん患者の内科系治療」に関する種々の活動にも会議の結果が反映された。

2)「高齢者がん医療 Q&A」編纂については、2018 年 12 月 15 日に第 2 回編集委員会を開催し種々検討した。2018 年中の作業内容と進捗状況を確認し、前年度の「高齢者がん医療Q&A」編集方針を再度検証、検討することにより、詳密な編集内容を新たに得た。すなわち「高齢者がん医療Q&A」編纂作業が進捗するにつれて種々不足脱漏箇所もあるため、あらたに執筆者・査読者の選出・依頼とした。

3)本研究班構成メンバーに加えて、がん関連 22 団体参加と 2 学会協力による「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」を設立し、2019 年 1 月 19 日に設立会議を開催した。がん領域に限らず、老年病領域、加齢研究領域の専門家も横断的な見地からの発表があり、本研究班員や「高齢者がん医療 Q&A」の執筆陣にとって有意義な会議であった。「高齢者がん医療 Q&A」の査読、校正にもフィードバックが期待され、参加者の理解・知識を拡充するものであった。

4)人材育成は焦眉の急の案件である。そもそも「高齢者がん医療」そのものに関心を寄せる医療者は決して多くはない。実際の臨床面を考えると現在・将来共に一層注力すべき分野である。昨今のがん医療の進歩は瞠目すべき展開をみせており、いわばそうした脚光の当たる分野と比較すると「高齢者がん医療」は関心が薄い分野である。しかし、2019 年 3 月 16 日に開催された「高齢のがん患者さんの治療をどうしますか？」との公開討論会には 80 名弱の参集者があり、当初予想の約 2 倍の参集者数となった。若年医療者も少なくなく、今後の人材育成活動に期待を持たせるものであった。

D. 考察

1)「高齢者がん医療」は、超高齢化社会を迎えた現在、その対応・対策は極めて重要である。幸い癌治療や老齢医学のコミュニティー間には、従来の活動や「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」設立の機会を通じて徐々にではあるが、「高齢者がん医療」へ共同研究・協働作業の機運が醸成されつつある。「高齢者がん医療」の治療部分を占めるのは「内科系治療」であることから、なお一層の協力・協調関係を維持・推進することが肝要と考えられる。

2)「高齢者がん医療 Q&A」編纂については、その進捗は順調であり、「内科系治療」の中心である「がん薬物療法」について各臓器がんの初稿が脱稿され、査読へと進んでいる。当該領域は実地医療の急速なニーズとも相俟って一層の興味と注目の度合いを深めているが、エビデンス不足は否めず科学的な編纂作業は困難がつきまとっている。かかる現況に際しては、実務医療に焦点を当て妥当かつ的確な「高齢者がん医療」が実践できるような「Q&A」編纂作業が必要と考えられ、精励が望まれるところである。

3)「高齢者がん医療協議会(コンソーシアム)」設立に至ったことは、今後の展開を考えると極めて意義深いことである。今後とも相互連絡を密にして、研修会、検討会を重ねつつ相互の理解と課題の克服に向けた協働を推進すべきと考える。特に本分担研究である「高齢者がん患者の内科系治療」においては、「老年医学」の心身に関する知見が礎となることから、コンソーシアム活動はなお一層重要である。

4)人材育成は焦眉の急の案件である。実学としての「高齢者がん医療」、「高齢者がん患者の内

科系治療」を担う医療者育成のため、一層の活動を推進したい。

G. 研究発表

1. 論文発表

Shimokawa M, Hayashi T, Kogawa T, Matsui R, Mizuno M, Kikkawa F, Saeki T, Aiba K, Tamura K.
Evaluation of combination antiemetic therapy on CINV in patients with gynecologic cancer receiving TC chemotherapy.
Anticancer Res. 2019 ;39(1):225-230.

Nakazawa Y, Ando N, Harada D, Kitamura M, Aiba K, Kawakubo T.
Retrospective investigation of the risk factors for sensitivity in panitumumab-induced hypomagnesemia.
Jpn J Cancer Chemother 45(10):1435-1440, 2018.

Kusumoto T, Sunami E, Ota M, Yoshida K, Sakamoto Y, Tomita N, Maeda A, Mochizuki I, Okabe M, Kunieda K, Yamauchi J, Itabashi M, Kotake K, Takahashi K, Baba H, Boku N, Aiba K, Ishiguro M, Morita S, Sugihara K.
Planned Safety Analysis of the ACTS-CC 02 Trial: A Randomized PhaseⅢTrial of S-1 With Oxaliplatin Versus Tegafur and Uracil With Leucovorin as Adjuvant Chemotherapy for High-Risk Stage Ⅲ Colon Cancer.
Clin Colorectal Cancer. 2018 Jun;17(2):e153-e161.

Oizumi S, Sugawara S, Minato K, Harada T, Inoue A, Fujita Y, Maemondo M, Watanabe S, Ito K, Gemma A, Demura Y, Fukumoto S, Isobe H, Kinoshita I, Morita S, Kobayashi K, Hagiwara K, Aiba K, Nukiwa T.
Updated survival outcomes of NEJ005/TCOG0902: a randomised phase II study of concurrent versus sequential alternating gefitinib and chemotherapy in previously untreated non-small cell lung cancer with sensitive *EGFR* mutations.
ESMO Open. 2018 Feb 23;3(2):e000313. doi: 10.1136/esmoopen-2017-000313. eCollection 2018.

Nishiwaki K, Sano K, Kamiyama Y, Hayashi K, Tanoue S, Katori M, Masuoka H, Aiba K.
Reduced-intensity umbilical cord blood transplantation for adult patients with fulminant aplastic anemia.
Rinsho Ketsueki. 2018;59(1):64-68.

川島雅晴、矢野真吾、齋藤健、横山洋紀、町島智人、矢萩裕一、小笠原洋治、杉山勝記、高原忍、南次郎、神山祐太郎、勝部敦史、鈴木一史、土橋史明、薄井紀子、相羽惠介.
チロシンキナーゼ阻害薬時代の慢性骨髄性白血病に対する同種骨髄移植の治療成績。
日本造血細胞移植学会誌 7 巻 1 号 9 頁-16 頁、2018 年.

西脇嘉一、佐野公司、神山祐太郎、林和美、田上晋、香取美津治、増岡秀一、相羽惠介.
成人劇症型再生不良性貧血に対する強度減弱前処置を用いた非血縁者間臍帯血移植.
臨床血液 59 巻 1 号、64 頁-68 頁、2018 年.

佐々木治一郎、相羽惠介、矢野篤次郎、冨田尚

裕、片渕秀隆、西山正彦、北川雄光.
日本癌治療学会認定がん医療ネットワークナビゲーター
がん患者と対症療法 2018, 27:48-49.

相羽惠介、片渕秀隆.
日本癌治療学会の学術活動と社会連携活動
日本婦人科腫瘍学会雑誌 2018 年、36 巻 2 号: 118-123.

Arakawa Y, Tamura M, Aiba K, Morikawa K, Aizawa D, Ikegami M, Yuda M, Nishikawa K.
Significant response to ramucirumab monotherapy in chemotherapy-resistant recurrent alpha-fetoprotein-producing gastric cancer: A case report.
Oncol Lett. 2017 Sep;14(3):3039-3042.

【研究課題の実施を通じた政策提言(寄与した指針又はガイドライン等)】
日本癌治療学会編 制吐薬適正使用ガイドライン ver2.2 2018 年

日本臨床腫瘍学会編 発熱性好中球減少症ガイドライン 第 2 版 2017 年

2. 学会発表
相羽 惠介、片渕 秀隆、有賀 悦子
学校がん教育 横浜宣言 2016:これからの展開
がん教育実施体制構築への経緯と課題
第 56 回日本癌治療学会学術総会 横浜市
2018 年 10 月 19 日

渡邊 清高、調 憲、浅尾 高行、相羽 惠介ら
6 都県における情報提供と相談体制 がん医療ネットワークナビゲーターの普及に向けて
第 56 回日本癌治療学会学術総会 横浜市
2018 年 10 月 20 日

H. 知的財産権の出願・登録状況
なし。